

袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習圏会議報告
平成8年6月6日(木)
午後7時-8時30分 集会室

平成8年度 第1回 袖ヶ浦地区学習圏会議

入居30年を記念し、随想集を編集しよう

平成8年度 第1回 袖ヶ浦地区学習圏会議が6月6日夜7時から、公民館で開かれました。平成8年度の活動計画について活発な討議がなされました。昨年度に引き続き、袖ヶ浦地域で抱えている課題について情報交換を密にして、学習を通して対応していこうということになりました。今年は袖ヶ浦入居30年にあたり、居住者による30年の随想集の編集をはじめ、主な課題としてつぎの学習に取り組むことになりました。

①地域における高齢者への対応について

市内でも高い率を示している袖ヶ浦の高齢者の実態や現状を探りながら、その対応について考えていこう。社福袖ヶ浦支部をはじめ各種ボランティアのみなさんを中心にそれぞれが役割とする活動をはじめ、習志野市民まつり、袖ヶ浦まつり、敬老会、給食サービス活動を推進します。

※高齢者のことについては、社福袖ヶ浦支部の福祉関係ボランティア(民生委員、老人相談員、ボランティアサークルなど)がそれぞれ活動していますが、これからは公民館の寿学級や、老人会、老人クラブのみなさんとも交流を行いながら、心の通った情報交換を重ねる中で、地域みんなで支えあうネットワークづくりをめざしていかなければならないと思われまます。

②少子化による地域の子どもへの対応については、

袖ヶ浦のまち中で子どもたちの数が減ってきました。子どもたちの地域での活動の実態はどうなのだろうか。学校の週5日制のことなどを考える中で公民館とタイアップして社会教育の問題として取り組んでいこうということになりました。

そこで、子どもたちの育成の問題、そして地域として何ができるか(リーダーの養成)を模索しながら、学習を推し進めて参ります。

※さまざまな意見がでしたが、地域の子どもについては、先の部会に対応していませんが、既に公民館事業として対応することになっており、協力いただくメンバーのほとんどが学習圏会議のメンバー(P.T.A.、子ども会、体指、市スポ)ですので、改めて課題対応の部会設定はしていません。

③『袖ヶ浦30周年祭り』

入居30年に関わる行事が計画されて、この夏は“きらっと'96”と併せて記念イベントが展開されるようです。

学習圏会議としては、入居30年の「随想集」刊行のため編集委員が作業を続けています。この入居30年キャンペーンを通して協力していくことにしました。…などが話し合われました。

なお「随想集」のことについての中間報告として、現在、約100件もの原稿が寄せられており、袖ヶ浦のみなさんの熱意に編集委員は深く感謝しています。

これからは原稿としての整理をすすめ、専門家に指導、監修していただきながら発行準備に入って行く段取りです。

これからがたいへんな作業になるわけですから、刊行のための費用捻出について、多くの方々に協力、支援をお願いします。

学習圏会議の年間予算は5万円。東、西まちづくり会議からのご好意で融通して頂くことになっていますが、とても賄える金額ではありません。

しかし、学習圏会議としてはできるかぎり手作り、簡素化をはかって 安価な製作費で作製したいという方針を貫きたいと思っています。

地域のみなさんのご協力もぜひ頂きたいと思っておりますので、ご提供の品々、ご寄付など、心からお願いいたしたいと思っております。

この袖ヶ浦を“ふるさと”にしようと30年前に集った 私たちです。このまちを育て、次代につなぐためにも住んで良かった袖ヶ浦でありたいと思うのです。今年一年、それぞれの立場でがんばってまいりましょう。(SK)

>--<--<--<

学習圏会議活動：将来に向けて、袖ヶ浦においてどの様な生涯学習を推進したらよいかを考える会議です。参加はオープンです。現在35名 団体・サークルなど様々な方が参加しています。いま、袖ヶ浦入居30年を記念する随想集の編集活動を行っております。地域で企画されるイベント、行事に期待しながら、微力ながらの応援をしております。



開地周辺 日 初冬の干潟 1991年

袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習圏会議報告
平成8年3月26日(火)
午後7時～9時 集會室

—平成7年度 袖ヶ浦学習圏会議

<袖ヶ浦入居30年>

”この街に暮らし” —随想集—

習志野って、どんなところだろう？

この袖ヶ浦をお選びになったみなさまがたは、日本地図にも載っていないこの海沿いの埋立地に、大きな期待を持って来られたことと思います。いやひょっとしたら不安もちよっぴりー。

習志野市と日本住宅公団の、「東京のベットタウン。潮風と海の見える街、すばらしい環境の街」のキャッチフレーズに私たちは誘われたのかもしれませんが。昭和四十二年七月、日本各地からこの新天地に歴史の一步を印したのです。

少ないバスの本数。電話は二軒の親子。水道はくさい。強い砂嵐。ゴミはあふれてー。あー。

東京方面へ出勤するサラリーマン家庭の妻たちも、獅子奮迅の活躍を余儀なくされたのも当然のことでした。

環境整備のこと、買物のこと、学校のこと、病院のこと…。開拓者は、どこでもそういうことに挑戦したように、私たちは、町会を、自治会をつくって、ささやかながら交流を持ちはじめたのです。みんな一生けん命にいろんな知恵を出し合って、この袖ヶ浦は、一丁目から六丁目までが、年毎に発展し、まちの成長を続けてきました。

この入居以来の三十年は、決して生易しい年月ではありませんでした。その一つ一つの想い出深い出来事は、いろんな分野に携わった人たちの胸の中で、しっかりと蔵われているのではないのでしょうか。

袖ヶ浦の三十年を記録しておこうと、学習圏会議では、いろんなエピソードや出来事の数々を、多くの人に読んで頂き随想集として刊行したいと作業を進めております。いま、二十一世紀に向けて、私たちの愛するこの袖ヶ浦を次の世代に伝えるために、みなさんの熱いメッセージが寄せられています。

<思い出エピソード>

テーマは、自由ですが、編集委員会には、つぎのような原稿が寄せられています。

<ああ、袖ヶ浦30年>

- ・埋立て前の海岸、暮らしの風景等
- ・”袖ヶ浦”を選択したエピソード
- ・入居時のくらしの珍現象、

困ったなあ

- ゴミ バス 電話 幼稚園
- 小学校 病院 スーパー
- 食堂 買物 防犯灯 出前
- 珍客万来、潮干狩てんやわんや
- 買物ロードは、立ち話コミュニティ
- ・新たなコミュニケーション
- 町会、自治会づくり
- ・PTA活動が芽生えました
- ・子ども会の育成でがんばりました
- ・スポーツ団体 クラブを誕生させました
- ・スポーツ少年団を結成させました
- ・袖ヶ浦婦人学級活動をはじめました
- ・袖東小併設幼稚園騒動記
- ・給食センター設立運動、そして自校給食へ
- ・3中学区健全育成協議会活動
- ・西小学校学校5日制推進委員会活動

<環境整備>

- ・メインストリートは 大型車はダメです
- ・たかが街路樹、されど街路樹(5丁目の桜)
- ・袖西小、袖東小、3中グラウンドの袖ヶ浦砂漠
- ・ショッピングセンター
- ・京葉道路の騒音には、参りました。
- ・3・3・2、3・3・3号線開通

・第2次埋立て

- ・元袖ヶ浦幼稚園のこと
- ・袖ヶ浦終末処理場跡地利用
- ・運動公園船だまり

<地域福祉活動>

- ・袖ヶ浦の地域福祉はこうしてはじまった
- ・そして、これからの福祉
- ・日赤活動のこと
- ・社福袖ヶ浦支部活動
- ・制度ボランティアの活躍
- ・袖ヶ浦福祉ネットワークづくり
- ・手づくりの敬老会行事
- ・ひまわり活動

<生涯学習活動>

- ・様々な文化活動を推進しよう
- ・お話し会活動
- ・児童文庫活動
- ・幼児教室
- ・地域の国際交流活動
- ・合唱活動
- ・ボーイ、ガールスカウト
- ・待望の公民館ができた
- ・祭フィーバー
- ・生活文化を築こう
- ・余暇活動から生涯学習活動
- ・寿学級活動
- ・老人クラブ活動

<くらし、まちづくり>

- ・子どもたちの病氣、どうしよう
- ・まちづくり会議活動
- ・地区学習圏会議活動



団地周辺 N 3.3.あい橋 1991年

こは 袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習園会議報告
平成7年6月17日(土)
午前10時~12時 会議室

平成7年度 第1回 袖ヶ浦地区学習園会議

西近隣公園再計画の推進と袖ヶ浦30年随想集編集を目指し
部会活動に取り組もう!

昨年度から袖ヶ浦のまちづくりに係わる地域の課題についての研究、学習を推進してきた袖ヶ浦地区学習園会議(代表 頭川潤子、1丁目)の平成7年度、第1回会議が、去る6月17日(土)袖ヶ浦公民館会議室で開かれました。

この会議には、地域で様々な活動を推進する人たち30名が参加しました。

今回は、多くの地域課題の中から、まちづくり学習にふさわしいテーマを探り、一つは、近々袖ヶ浦入居30年目のエポックに至ることから、この間の袖ヶ浦におけるまちづくりの随想集を編集しようと言うものであります。

また、もう一つは、船だまりの埋立てに伴ない近隣公園の再整備計画が浮上してきていることから、近隣公園の新しい構想をまとめてみようということ等が熱心に話し合われました。

活動の進め方としては、それぞれに西近隣公園部会と袖ヶ浦30年編集委員会が組織され、学習活動として展開していくことになりました。

公園部会の代表となった佐藤志郎さん(2丁目)は、袖ヶ浦の文化ゾーンになるような野外ステージを備えた緑豊かな楽しい公園づくりを推進したいとその構想を語っておりました。

また、30年編集委員会の代表となった頭川潤子さん(1丁目)は、袖ヶ浦30年のそれぞれの想いを袖ヶ浦住民の共通のアンソロジーとなるようなものを編集したいとその抱負を語っておりました。

今後は、具体的な活動を進めて行きますが、二つの部会は、今後の活動計画をつくり、地域活動として展開して行くと思われれます。

一人でも多くの人の参加を期待し、活動は、オープンになっておりますので、それぞれに興味、関心のある方は、自由に参加、協力をお願いします。

部会の日程については、館報等を通じてもお知らせする予定ですが、詳細は、公民館にお問合せください。

当面の部会活動の予定はつぎのとおりです。

<袖ヶ浦西近隣公園整備部会>

- ①西近隣公園計画とは、公園計画の進め方、考え方
- ②参考となる公園の視察
- ③西近隣公園構想について討論、あるいはシンポジウム
- ④意見調整、まとめ作業

<袖ヶ浦30年随想集編集委員会>

- ①企画、編集委員会議、キャンペーン
- ②資料調査、取材、原稿募集
- ③原稿作成
- ④編集作業

なお、編集の知識や技術については、専門家の指導を得る等、みんなで学習していきます。

地区学習園会議は、地域住民の会議です。まちづくりの課題をみんなで学習し、普段の生活に反映させようとする会議です。ひとりでも多くの住民のみなさんの参加をお願いします。詳細は、袖ヶ浦公民館 (51) 6776まで

<袖ヶ浦30年随想集編集委員会への期待>

忽然と日本の地図に現れた袖ヶ浦。まもなく30年を迎えます。世代交替が進むいま、その間の様々なできごとをふりかえり、また、明日のまちづくりに希望を持ち、よりよいものをみんなで考えることは、大変に意義あることと考えます。

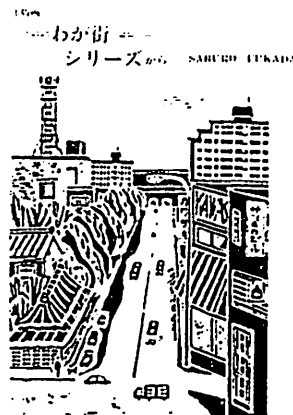
そこで、袖ヶ浦まちづくりにかかる「随想集」を編集し、袖ヶ浦住民共通のアンソロジーとすることを期待し、住民みんなによる編集作業を進めてまいりましょう。

<袖ヶ浦西近隣公園整備部会への期待>

習志野市では、キャッチボールコミュニケーションのもと市民の意見が反映した市民みんなで作るまちづくりをめざしています。

袖ヶ浦西近隣公園についても、利用者本意の公園づくりが行なえるように、また、できた公園が愛着をもって使われる公園となるように、住民のみなさんの意見が結集してかたちになっていく公園づくりを実現したいと考えています。

(SK)



団地周辺 V まるにえ橋通り 1991年

袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習圏会議報告
平成7年3月18日(土)
午後1時30分～4時 集会室

袖ヶ浦地区学習圏 第3回 “会議” 開かれる

ひとりでも多くの意見を提案しよう!

<報告>

阪神大震災、復旧緊急レポート

1月17日 阪神地域を襲った震度7の阪神大震災の救助活動に参加した市企業局、及び市消防本部救急隊からのレポート報告がありました。

普段の防災対策は言うまでもないが、現地の被災の状況を目の当たりにし、救護、復旧対策については、その体制の確立をはじめ、初動情報の把握、救護態勢、水をはじめとするライフラインの確保、早急な復旧活動など、予測を越えた状況に対する対応の重要性を再認識させられた。

現在、これらの状況を習志野に置き換えた状態を想定し、防災計画をはじめ、避難態勢、復旧態勢の抜本的な見直しが進められているので、地域においても地域防災計画について、もう一度点検して頂くと共に、地域の連帯を十分に図り、万一の場合に備えてほしい、とのことでした。

<質疑>

- ・災害は、避けられないものなら、その事後処理が大変に重要である。
- ・隣り組等の協力、思いやりが大事だ。被害を最小にする。
- ・備蓄倉庫の現状（何が備蓄されているのか）を詳しく知らせて欲しい。
- ・避難場所、食糧等の保管場所のマップがあるとよい。
- ・避難場所を中心とした分散的対応を地域に確立する必要がある。
- ・防火用水の再点検、増設を図ってほしい。
- ・海水、汚水の飲料水化の研究が必要ではないか。

袖ヶ浦西近隣公園を 袖ヶ浦の文化ゾーンに

<要請>

船だまり、横引き水路の埋立てにより、東地区近隣公園、運動公園、西地区近隣公園、葦切り近隣公園の再整備を進めている。その一つとして、西近隣公園については、今年度一ぱいをかけて、地域の方々と協議し、地域に相応しい公園整備計画を計って行く。そこで、地域の使い勝手のよい、楽しい、そして、地域の文化を醸成できるような公園計画を地域学習圏会議としても研究して欲しい、とのことである。

<質疑>

- ・公民館の図書館を拡張した公園でも本が読める工夫を。
- ・地域の行事（盆踊り、子供会、老人クラブ）や公民館行事（ステージを必要とするミニコンサート、青少年のライブ、節分行事、自然観察等）がスムーズにできる機能を整備してほしい。屋外ステージなどがあるとよい。
- ・加えて、せせらぎ水路、茶庵、東屋など、散策も楽しめる施設もほしい。
- ・公民館が手狭間になってきている。集会施設の増設を図ってほしい。
- ・小さい子から老人まで、それぞれに楽しめる機能を考えて。
- ・ゲートボール場には、付属の倉庫、ベンチ、トイレを設置してほしい
- ・防災、避難施設も現在の法律では、認められている
- ・整備計画については、地域の意見を集約し、テーマを絞ったコンセプトの確立を図ってほしい
- ・公園を整備することについて、そのやり方や、方法を説明してほしい
- ・学習圏会議としては、公園整備の専門部会を設け、研究をすすめ、まとめ、期限までに提案する形で対応したい、いかがでしょうか
- ・自薦、他薦を問わず、委員会をつくり対応しましょう

袖ヶ浦随想集を地域で編集しよう

<提案>

そろそろ入居30年。ひとつの区切りとしては良い時期です。この間、世代も変わり、新しい時代をめざし、袖ヶ浦のまちは、これからも飛躍的に前進することを願いたい。今を築いた歴史を随想風にしたため、それぞれの思いを袖ヶ浦住民の共通の思いとしたいものです。そこで、住民挙っての随想集をそれぞれのエピソード毎に寄稿、あるいは取材、発掘により、まとめるものです。

- ・この活動は、学習圏の活動に大変相応しい活動です。みんなでやりましょう。
- ・30年に向けて、各町会や学校等が何かの行事を企画すると思いますので、そのキャンペーンとしてこの活動を進めたいと思います。
- ・各町会や自治会等の会報が以前からこれらの情報をまとめているはず、よい情報源になると思う。
- ・費用的には、まだ白紙です。各町会には、是非に協力してほしい
- ・冊子の内容（企画、編集）については、この会の人たちにより編集委員会を組織して進めたいと思います。
- ・これから具体的な編集活動にはいりますので、今後は、先の公園部会と同様、全体会に報告しながら作業を進めます。皆さんのご協力をお願いします。

学習圏会議は、“生涯学習を推進する”地域の会議です。地域一人ひとりの意見によって成り立っていきます。是非に、皆さんのご意見をお寄せください。

(SK)

わか街一
シリーズから SABURO UEKADA



同地周辺 1 夜半の明かり 1987年

袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習圏会議報告
平成6年9月22日(木)
午後7時～9時 集会室

第2回 袖ヶ浦地区学習圏会議

会議をどう進めるか、アンケートを集計 分析

初秋の9月22日(木)、袖ヶ浦公民館で第2回袖ヶ浦地区学習圏会議が開かれました。

会議は、7月に実施された袖ヶ浦地区における「生涯学習についての意識、動向」のアンケート結果を解析するものでした。

アンケートは、「生涯学習について」の関心度から、地域における学習活動の実態、そして将来的な動向、さらに生涯学習の課題、生涯学習を育む地域の課題等について調査されたもので、集計データの解析結果は、40代～50代の方々の関心度が非常に高く、回答者の8割以上がすでに学習活動を行っておりました。今後の動向についても、従来の余暇の休息型から自己向上を目指した生涯学習型への志向性が伺え、具体的な活動としては、趣味や一般教養的な活動からスポーツ、地域活動、ボランティア、健康増進、高齢化問題、生涯学習、まちづくり、と多様化し、なかでも高齢化に関する問題については、突出した関心度が示されておりました。

生涯学習推進活動としての課題については、今後とも公民館を地域活動の拠点に据え、地域の生涯学習の先頭をきって様々な学習会や講座、イベント事業を推進、実施するよう期待され、「学習圏会議」活動としては、様々な学習の情報提供や、地域の人材発掘、生涯学習活動の支援、指導、協力、さらに学習圏会議活動の充実、推進等など、の意見が寄せられておりました。

以上、アンケートの概略ですが、今後の袖ヶ浦地区学習圏会議活動に十分参考になるものでした。

今回の会議で討議された議題はつぎのとおりでした。

1. 運営委員会からの報告

全体会を開催するにあたり、2回の運営委員会を開催し、課題、活動についての討議を進めてきました。会議の性格上、討議する案件については、しばらくの間は、運営委員会で提案させて頂き、今後は、メンバーの皆さんから提案された案件により討議、運営してまいります。運営委員会は、全体会議の世話役と位置

付け、活動の方向づけをする役割を果たしていきます。

会議に係る予算は、別紙のとおりで、市からの助成金でまかないます。

公民館で行われる文化祭への協賛については、文化祭実行委員会からの要請、自治会をはじめ、地域から「企画イベント」へ参画するようお願いがありました。誕生間もない「会議」のため、生涯学習をPRできるような展示(袖ヶ浦の写真展など)を実施する。

なお、活動計画については、課題別の部制を敷いて活動する方法を皆さんに図ってまいります。

2. 袖ヶ浦入居30年随想集の編集について

入居以来30年を経過すると、世代交代が進み、入居時の様子を知る人もだんだんと少なくなる。そこで、これを次世代へ伝える必要から、その記録を取りまとめする活動を築いていきたい。「編集」については、運営委員会で「案」を検討していきます。

3. 各団体、機関からの報告

<社福袖支部>

・10月2日(日)10時から袖東小体育館で袖ヶ浦地区敬老会を開催。
対象、70歳以上751名 参加予定 372名 お手伝いの皆さんには、よろしくお願ひします。

<市民まつり地区実行委員会>

・市民まつりで制作した「山車」を市民文化祭で地域に披露したい。

<団地自治会>

・文化祭には、例年通り喫茶店、茶会を行いたい。
・入居者の協力で駐車場を整備しましたが、現在300台近い違法駐車が目立ちます。近々、取り締まりを行い、善処したい。
・高齢者の重要な課題として「医、職、充」を考えている。医は医療、職は職業、充は生きがいで、特に職として、高齢者に協力してもらえるような団地の環境整備、花壇づくり等の事業を開発、検討していきます。公団一階の空室については、高齢者世帯を優先に転居させていくことを公団との話し合いで決定しました。これに伴う居室の改造も可能になりました。
また、管理事務所横に高齢者用の冷暖房完備の一室があります。ご利用ください。

以上、会議は、公民館の閉館時間により、やむなく打ちきりとなりましたが、次回会議は、日中の余裕のある時間帯に設定するよう要請がありました。(SK)



団地周辺 ■ 休日のS団地 1988年

こゝには 袖ヶ浦

袖ヶ浦地区学習圏会議報告
平成6年6月4日(土)
午後2時～5時 集会室

平成6年度 第1回 袖ヶ浦地区学習圏会議

新しい「会議」に期待! 袖ヶ浦の明日を語ろう

梅雨入り前の6月4日(土)、袖ヶ浦公民館ではじめての「袖ヶ浦地区学習圏会議」が召集されました。

この会議は、公民館が主催となって地域の生涯学習をいかに進めるかを討議する会議で、市の生涯学習推進施策の一環として実施されたものである。

メンバーは、それぞれに地域で活躍する福祉関係団体や社会教育関係団体をはじめ、三中、袖西小、袖東小、袖西幼、袖東幼、それに各PTA、そして公民館で活動するサークルの代表、地域で子ども会やスポーツ活動を推進する方々、様々なボランティア、公民館など行政機関の職員などで当日は37名が集いました。

袖ヶ浦地区は、昭和39年、突然日本の地図の中に現れ、昭和42年、全国から集まった人たちによって築かれたまちで、まもなく30年を経過しようとしている。

会議は、明日の袖ヶ浦について語り合おうと、それぞれの活動について振り返りながら、次のような話しがなされました。

- 袖ヶ浦草創期の第一世代の当時のエピソードとして
- ・ほこりがひどかった、まるで袖ヶ浦砂漠-->グラウンドのダスト化を図る
- ・京葉道路の騒音がひどい。90ホーンを測定、道路公園に陳情、防音壁の改善を求める防音壁設置運動を展開
- ・学校施設が足りない--> 体育館、プレハブ校舎の設置
- ・学校給食開始--> 自校方式かセンター方式か
- ・みどりが少ない--> 地域緑化の推進運動
- ・PTAをつくらう--> 任意加入制方式--> 袖東小を分離
- ・子ども会を育てよう--> 袖西、東小にPTAを組織、子ども会発足
- ・町会が必要だ--> ごみ、街灯、電話、名簿づくり
- ・スポーツクラブをつくらう--> スポーツ少年団結成(野球、サッカー、剣道、水泳)

そして、昭和50年代後半から平成への第二世代は、
・文化活動がしたい--> 公民館がほしい、公園か公民館か

- ・集いが必要--> 文化祭をやろう、盆おどりをやろう
- ・イベントをしよう--> 団地まつり、グリーンフェスティバル、ふるさとまつり
節分豆まき行事をやろう
- ・路上駐車が多い--> 駐車場が少ない--> 自治会活動での成果
- ・子どもたちが荒れている--> 健全育成の推進(三中学区健全育成推進協)

等など、つぎつぎにまちのさまざまな活動が語られました。

まさに、めぐる時代の中に袖ヶ浦のまちの変遷が明らかになってきました。

いまや時代は、高齢化、少子化、情報化、国際化が著しく予想される二十一世紀の第三世代へ移ろうとしています。これからの時代の見通しは、不透明ではっきりと予想が出来ない今日です。

しかしながら、いくら何でも豊かで楽しく、暮らしやすい未来をめざす必要があります。そのため私たちにできることは、まちに住む様々な人々が集い、現在を知り、問題点を理解し、みんなで解決する方法を模索、研究するしかないようです。まさに「生涯学習のまちづくり」の推進です。それは、このまち袖ヶ浦をひとりひとりが見つめなおし、総括していく中で、より新しいまちづくりを進める方法・実践をみんなで考えていく必要があるということでしょう。

それぞれの活動を袖ヶ浦の歴史として披瀝されたみなさんの話しからは、まちの基盤、そして人々の暮らし、交流、人間関係、教育、地域の福祉などがこれからの袖ヶ浦の課題ではないかと、提起されているようでした。

- ・まちが高齢化した--> 入居時は、三十代後半が主軸だった。今は、六十代か? これからはもっと高齢者の活動の場が必要になる。高齢者の福祉の充実が一層重要になる
- ・子どもが少なくなった--> 子どもの遊ぶ声が聞こえない。大規模校の袖西、東小、三中にも空き教室が目立つ。保育所、幼稚園の児童数も激減してきたようだ。
- ・何がしか息切れがして、活力が感じられない--> 若者、青少年、子どもの姿があまりみられない。まちが静かになって活気を感じない。なぜだろうか。
- ・何か、まちのイベントを企画しよう--> まちがワガワ-するようなことがないだろうか。(公民館まつり、フリーマーケット、ふるさと市)
- ・まちの課題を明らかにしよう。--> 学習圏会議をそんな会議にしよう。そして、課題解決にみんなで学習し、知恵を出し合おう。

等など、...

会議は、予定の時間をはるかに過ぎてしまいました。そして会議は次回に引き継ぐことになりました。



埋立り番地 Ⅱ 工場発出 1978年